

2018年3月期 第2四半期 決算説明会

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業

2017年11月16日

昭和産業株式会社



本日のスケジュール

- | | |
|----------------------------|---------------|
| I. 長期ビジョン・中期経営計画 | 13:30~ |
| II. 2018年3月期第2四半期決算 | |
| 代表取締役社長 | 新妻一彦 |
| III. 営業概要 | 13:50~ |
| 取締役専務執行役員 | 檜前慶一 |
| IV. 穀物原料事情概況 | 14:00~ |
| 原料部長 | 荒川謹亮 |
| V. 質疑応答 | 14:10~ |

I. 長期ビジョン・ 中期経営計画について

穀物ソリューション・カンパニー



昭和産業

代表取締役社長

新妻 一彦

1-①. グループ経営計画体系

グループ
経営理念

人々の健康で豊かな食生活に貢献する

ありたい姿
(長期ビジョン)

SHOWA Next Stage for 2025

行動指針

SHOWA 魂

- ・一人ひとりが力を発揮し、Next Stageに挑戦します。
- ・誠実な行動、力の結集、多様性の尊重を掲げて、企業の社会的責任を果たしていきます。

1-②. ありたい姿(長期ビジョン)の概要

SHOWA Next Stage for 2025

〔ありたい姿〕

全てのステークホルダーに満足を提供する
“穀物ソリューション・カンパニー Next Stage”
～幹を太くし、枝葉を広げ、世の中のためになる果実を育てる～

連結売上高 4,000億円、連結経常利益200億円を目指します

〔方針〕

昭和産業グループならではの複合系シナジーソリューション
を進化させると共に、ESG視点での取り組みも強化し、
企業価値の向上に努めます。

〔期間〕 2017年度～2025年度（9年間）

1-③. ありたい姿と中期経営計画の位置付け

ありたい姿（長期ビジョン）
SHOWA Next Stage for 2025

ありたい姿（長期ビジョン）の実現に向け、
中期経営計画を三次にわたり展開



2. 中期経営計画17-19の概要

中期経営計画 17-19

〔期間〕 2017年度～2019年度（3年間）

基本方針

基本戦略

“ありたい姿の
実現に向けた足場固め”

安定的収益基盤の確立と
更なる成長への準備

①基盤事業の強化

②事業領域の拡大

③社会的課題解決への貢献

④プラットフォームの再構築

⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化

2-①. 基盤事業の強化



RD & Eセンターの成果 ＜新製品の開発＞

R(研究)、D(開発)、E(技術)が融合し、
商品開発のスピードアップを実現

1. ローストファインブラン

- ・食物繊維強化や低糖質に対応した食品素材
- ・おいしさと二次加工性を両立する製造条件を開発



2. 天ぷら粉専用小麦粉および天ぷら粉

- ・国内産小麦粉を自社設備を用い、独自の製造条件で処理した新たな機能を持つ小麦粉を開発



2-②. 事業領域の拡大

グランソールベーカリーの稼働状況

<概要>

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 1. 住所 | : 茨城県神栖市東深芝 |
| 2. 敷地面積 | : 約27,700㎡ |
| 3. 延床面積 | : 約14,500㎡ |
| 4. 操業開始 | : 2017年1月 |
| 5. 生産品目 | : 冷凍パン生地及び菓子類 |
| 6. 生産能力 | : 冷凍生地約500,000個/日 |
| 7. 運営会社概要 | |
| ①会社名 | : グランソールベーカリー株式会社 |
| ②本社所在地 | : 茨城県神栖市東深芝（工場所在地に同じ） |
| ③従業員予定数 | : 社員約40名（パート、派遣は除く） |
| 8. 稼働状況 | : 当初計画通り |
| 9. カバー店舗数 | : 約2,000店舗 |



2-②事業領域の拡大

台湾大成集団



大成昭和食品（天津）有限公司



大成良友食品有限公司（上海）

【事業内容】

食品・飼料・外食などの事業を展開

【これまでの取り組み】

2003年

大成昭和食品(天津)有限公司を合併で設立

→中国にて**プレミックス事業**を展開

2014年

大成良友食品(上海)有限公司に出資
(上海良友集団と台湾大成集団の合併会社)

→中国にて**製粉事業**を展開

2-② 事業領域の拡大

【調印式】



2017/10 業務提携契約締結

基盤事業の強化、
事業領域の拡大に向け、
様々なレベルの協業を検討

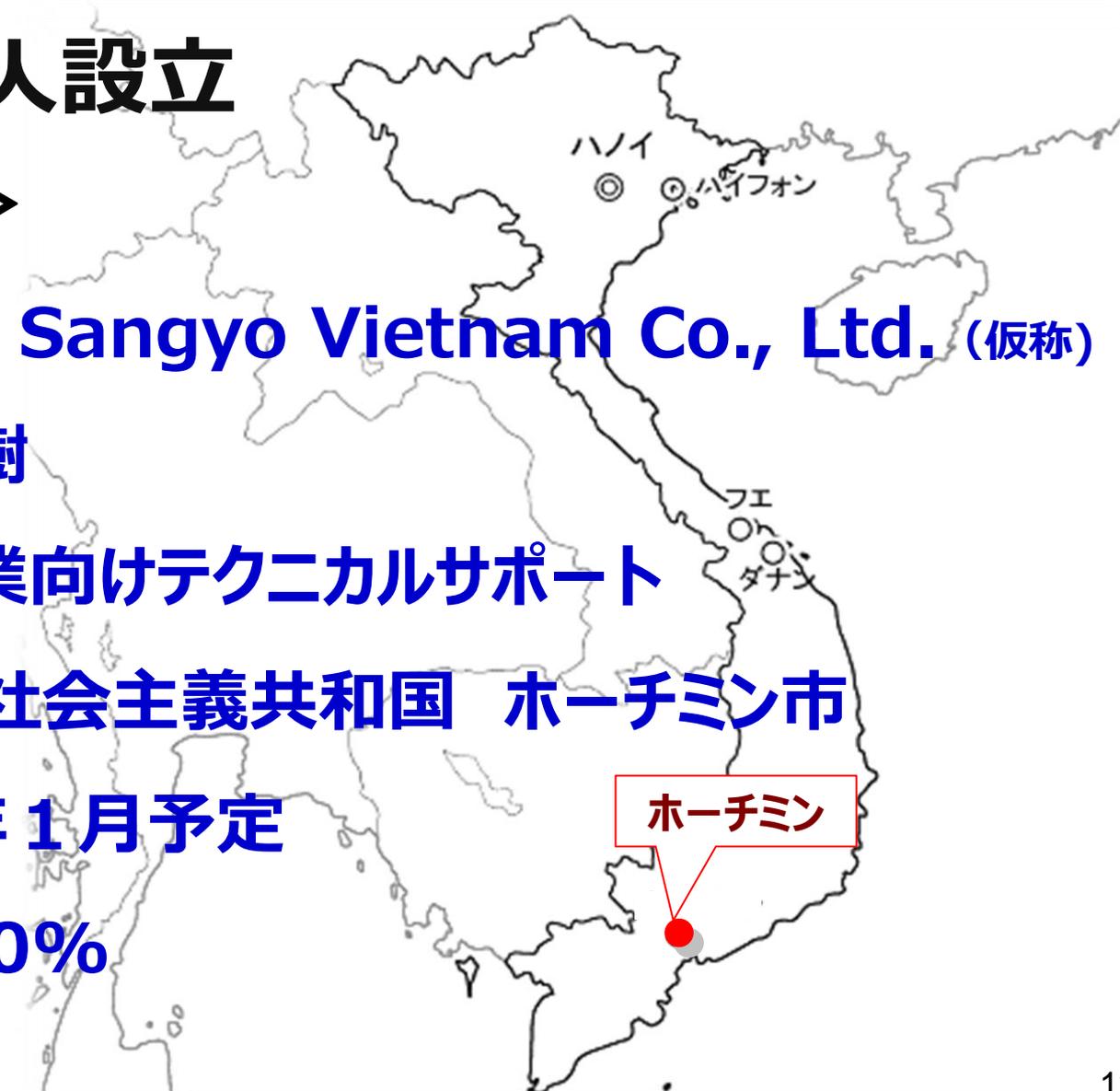


2-②事業領域の拡大

ベトナム現地法人設立

<新会社の概要>

会社名	Showa Sangyo Vietnam Co., Ltd. (仮称)
代表者	門倉英樹
事業内容	食品企業向けテクニカルサポート
所在地	ベトナム社会主義共和国 ホーチミン市
設立	2018年1月予定
出資比率	当社100%



2-③ 社会的課題解決への貢献

SDGs :

2030年に向けた持続可能な開発目標



出典：国際連合広報センター

ESG経営 :

非財務的取組み

Environment
環境

Social
社会

Governance
企業統治

「食」を通じた「社会」への貢献

2-③ 社会的課題解決への貢献



カロリー
1/4カット

糖質
1/4カット

1/2日分の
食物繊維入り

市場へ新たな価値を提供

2-③ 社会的課題解決への貢献

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業

昭和産業健康宣言

グループ経営理念である『人々の健康で豊かな食生活に貢献する』を追求するためには、何よりもまず社員の健康が大切であると考えます。

昭和産業は、社員の健康の維持・向上に取り組み、持続的な成長を実現することで、これからも社会に貢献していくことを宣言します。

1. 「社員の健康ファースト」の企業風土醸成

社員の健康の増進活動を推進することで、

「社員の健康が第一」の企業風土を醸成します。

2. 働き方改革の推進

ワーク・ライフ・バランスを実現することで、

社員一人ひとりが健康でイキイキと働ける会社を目指します。

昭和産業株式会社

代表取締役社長 新妻 一彦

2-③ 社会的課題解決への貢献

SDGs :

2030年に向けた持続可能な開発目標



出典：国際連合広報センター

ESG経営 :

非財務的取組み

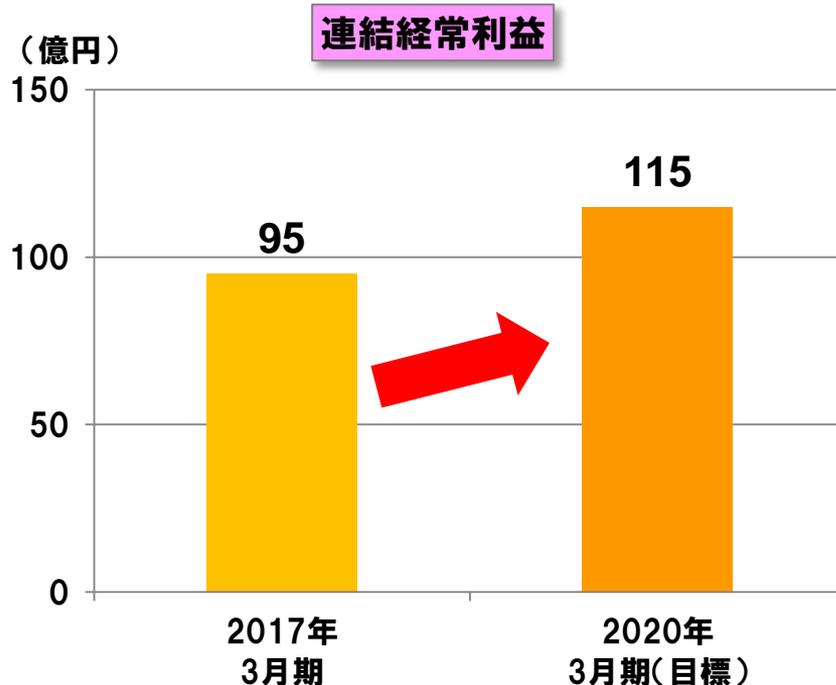
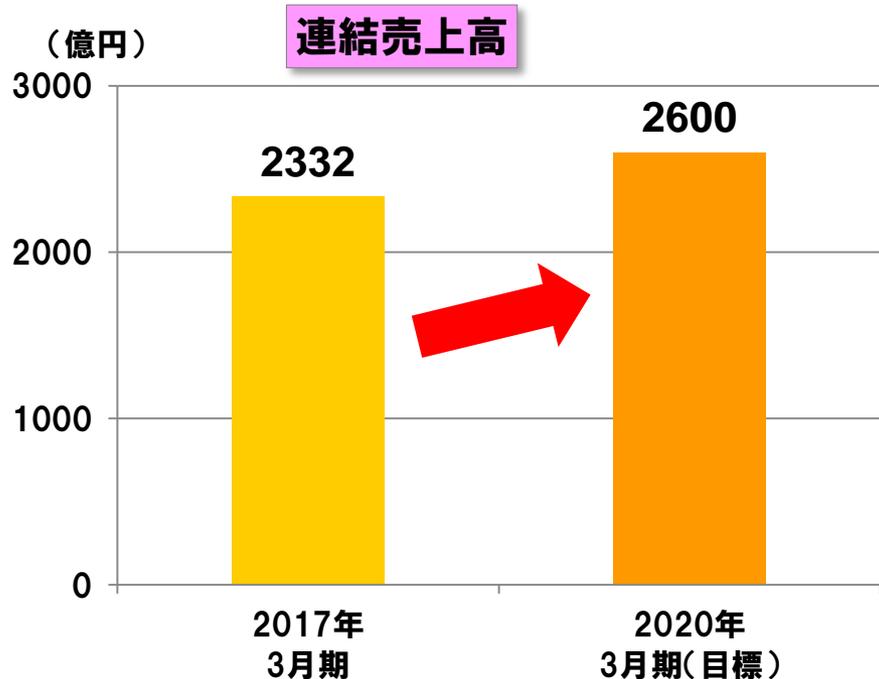
Environment
環境

Social
社会

Governance
企業統治

「食」を通じた「社会」への貢献

3. 中計数値目標(2019年度目標)



ROE	9.0%以上
自己資本比率	50%以上

上記数値目標を達成することにより、収益性の向上、財務体質の強化をはかります

Ⅱ. 2018年3月期 第2四半期概要

穀物ソリューション・カンパニー



昭和産業

代表取締役社長

新妻 一彦

1. 2018年3月期第2四半期業績

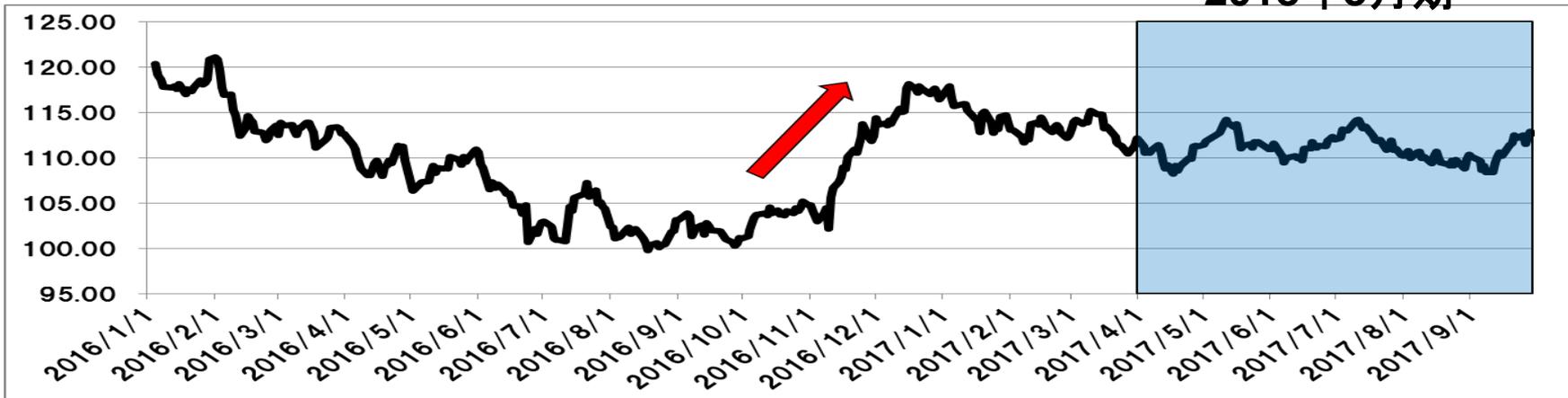
(百万円)

	2018年3月期 第2四半期	2017年3月期 第2四半期	増減	前期比	進捗率 (対業績予想)
売上高	116,171	117,800	△1,629	△1.4%	47.8%
営業利益	3,618	5,244	△1,626	△31.0%	47.6%
経常利益	4,332	5,777	△1,445	△25.0%	52.2%
親会社株主に 帰属する当期 純利益	2,890	3,604	△713	△19.8%	54.5%

1-①. 為替・穀物相場

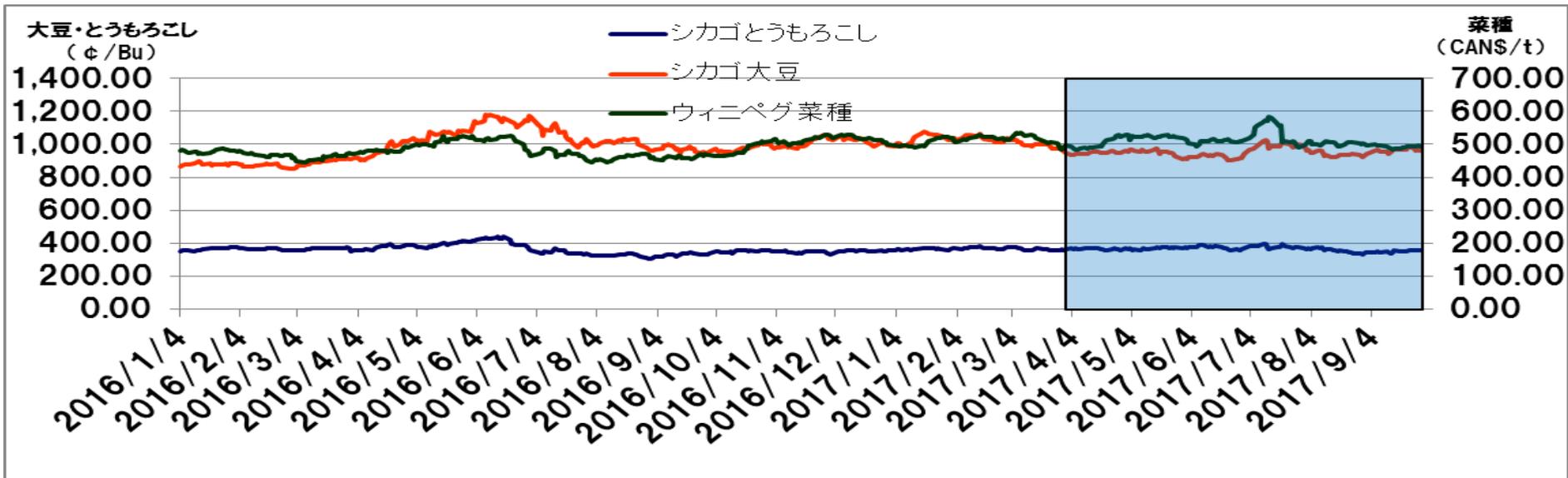
為替相場

2018年3月期



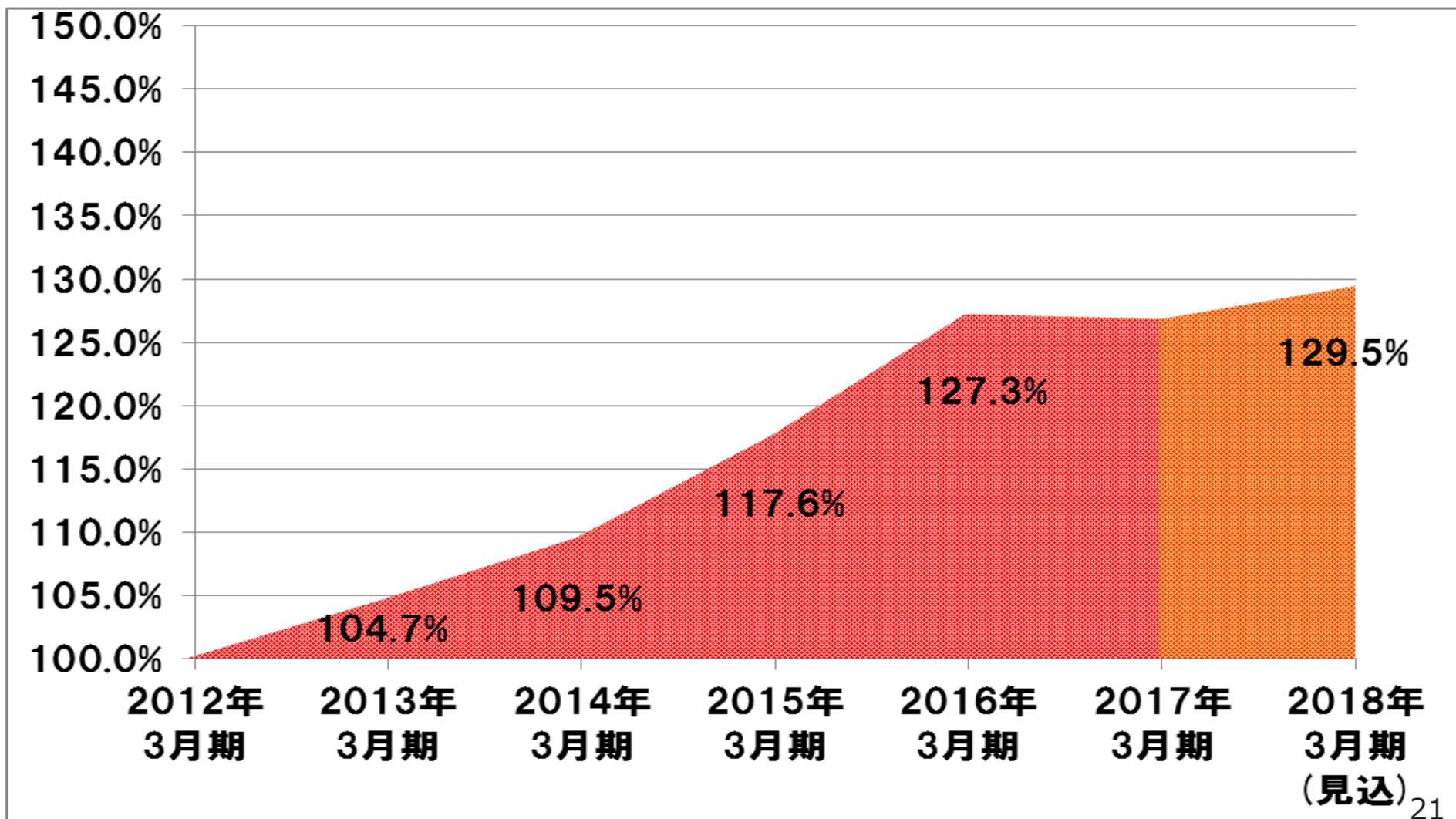
穀物相場

2018年3月期



1-②. 販売数量の推移

食品関連販売量指数（単体）

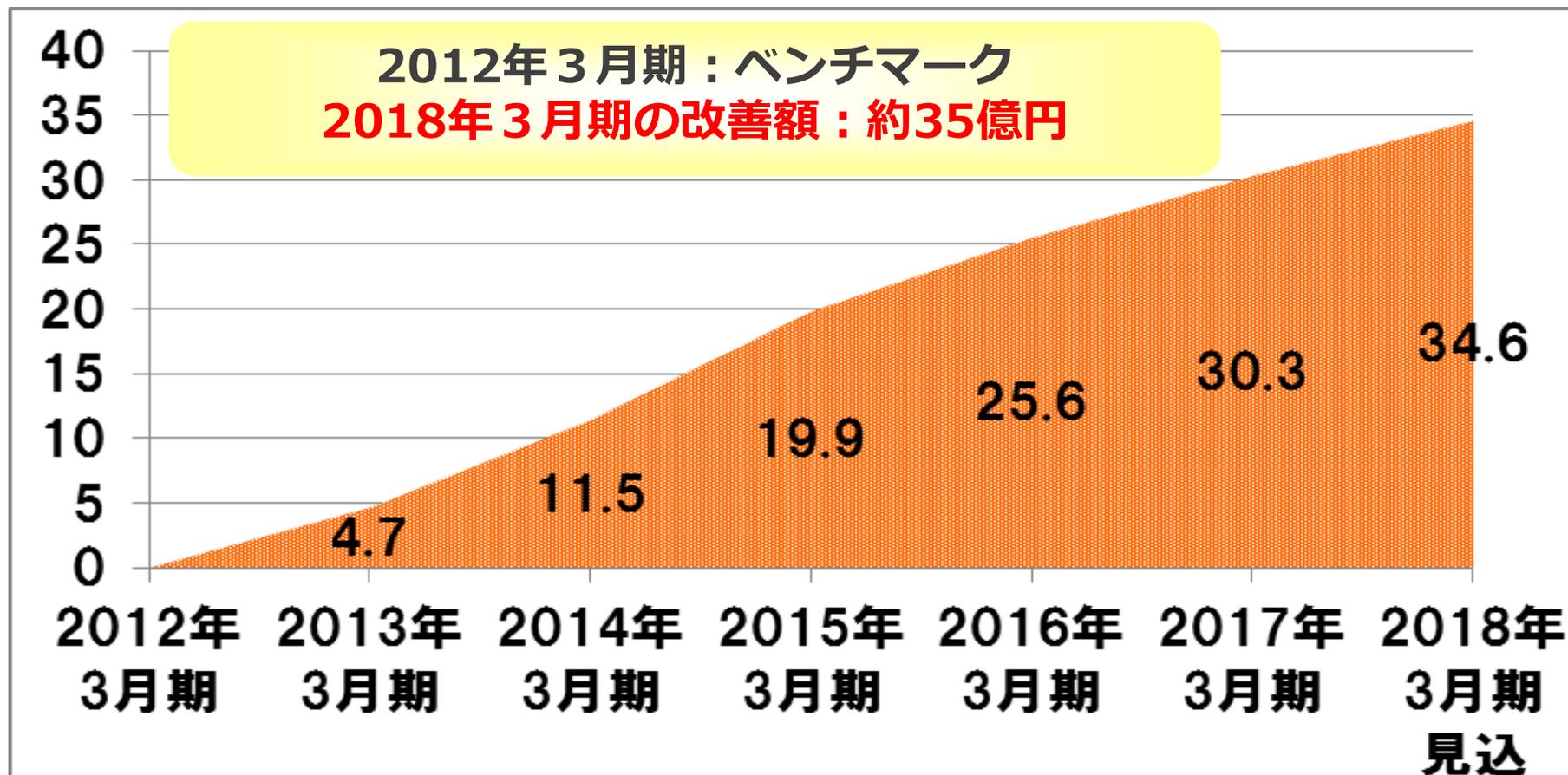


1-③. 生産部門における効率化の推進

生産コスト改善(鹿島・船橋・神戸工場)

(1)歩留向上 (2)ロス削減 (3)エネルギー効率向上 (4)生産効率向上

(億円)



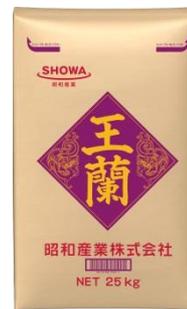
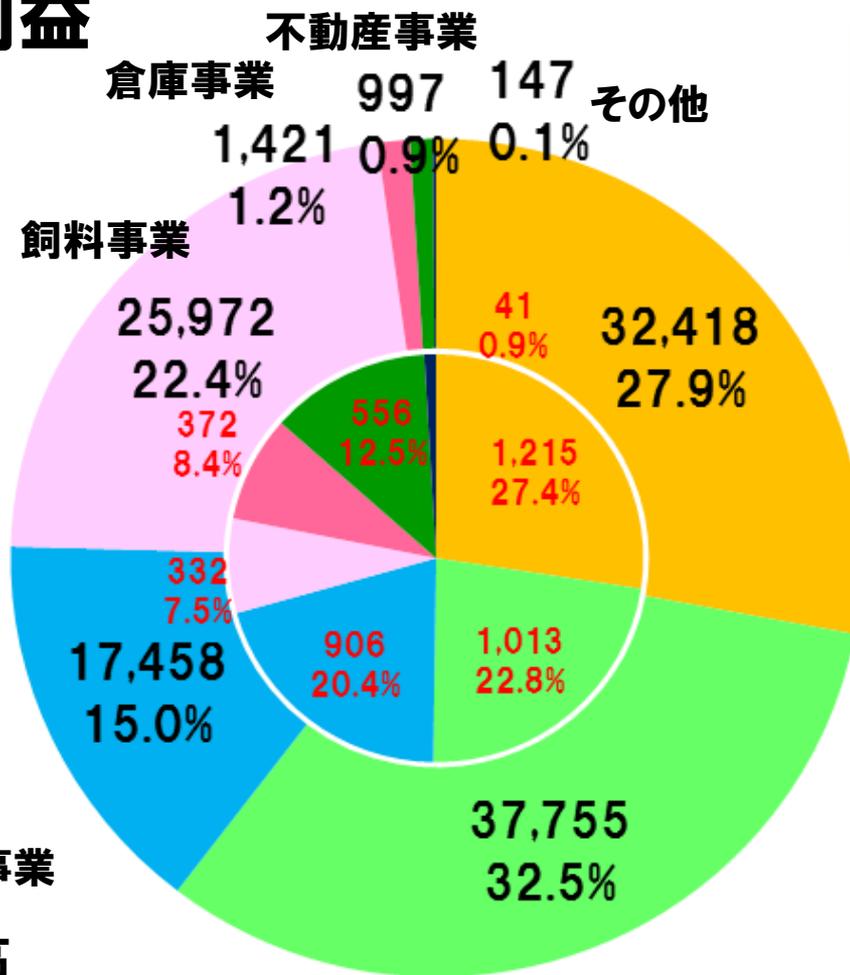
2-①. 2018年3月期第2四半期セグメント別業績

(百万円)

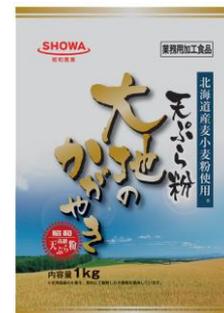
	売上高				営業利益			
	2018年 3月期	2017年 3月期	増減	前期比	2018年 3月期	2017年 3月期	増減	前期比
製粉事業	32,418	33,287	△869	△2.6%	1,215	1,779	△564	△31.7%
油脂食品 事業	37,755	37,891	△136	△0.4%	1,013	1,322	△309	△23.4%
糖質事業	17,458	17,122	336	2.0%	906	1,726	△820	△47.5%
飼料事業	25,972	26,942	△970	△3.6%	332	303	29	9.6%
倉庫事業	1,421	1,400	20	1.5%	372	364	7	2.0%
不動産事業	997	1,005	△7	△0.7%	556	557	△0	△0.1%
その他	147	150	△2	△1.9%	41	35	6	18.7%
会社費用等					△819	△845	25	—
合計	116,171	117,800	△1,629	△1.4%	3,618	5,244	△1,626	△31.0%

2-②. 2018年3月期第2四半期セグメント別業績

売上高、営業利益 (百万円、%)



製粉事業



油脂食品事業



糖質事業

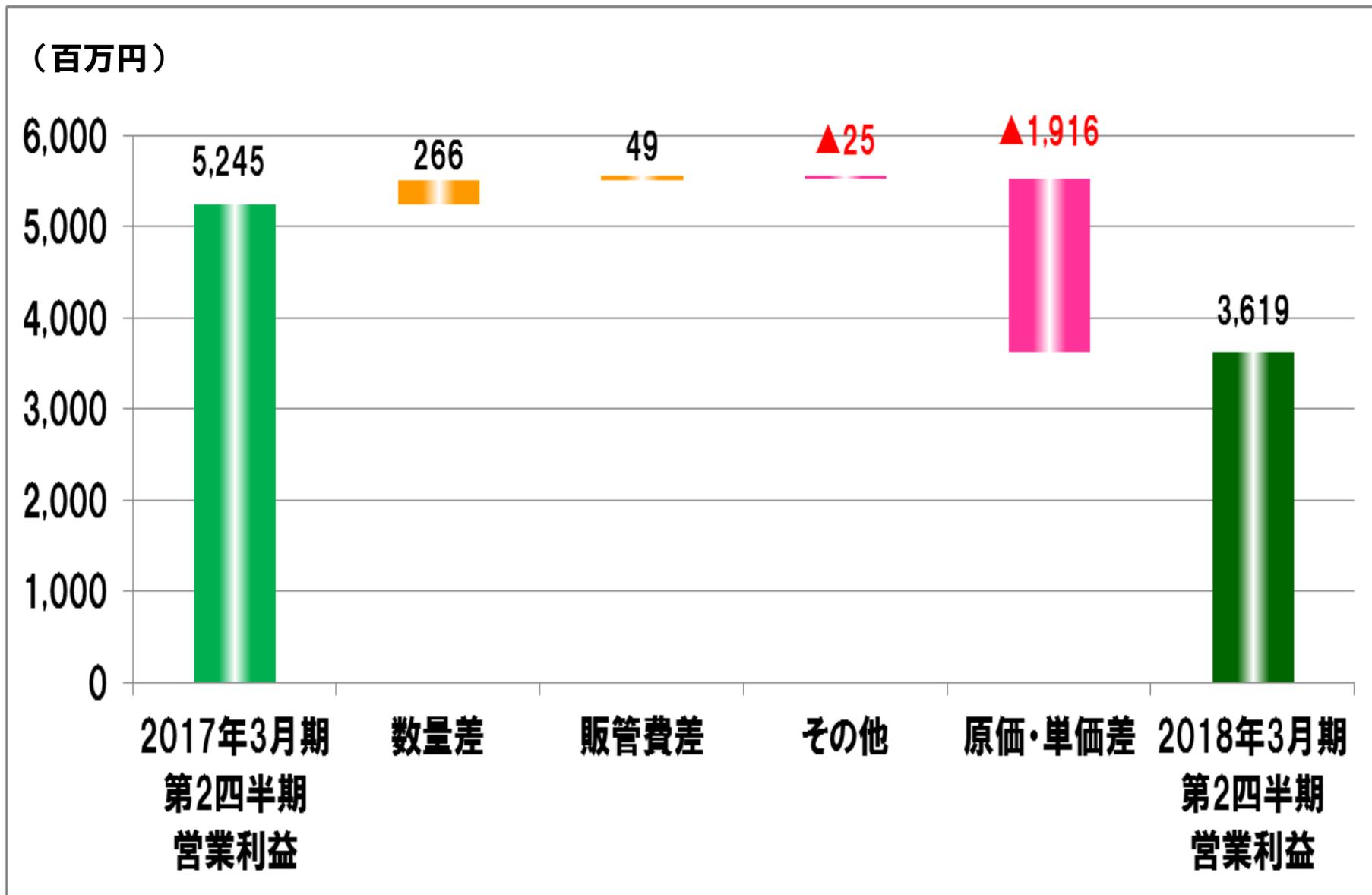
外円:売上高

内円:営業利益

※セグメント利益の調整額

▲819(百万円)は含まず

3. 営業利益の増減要因



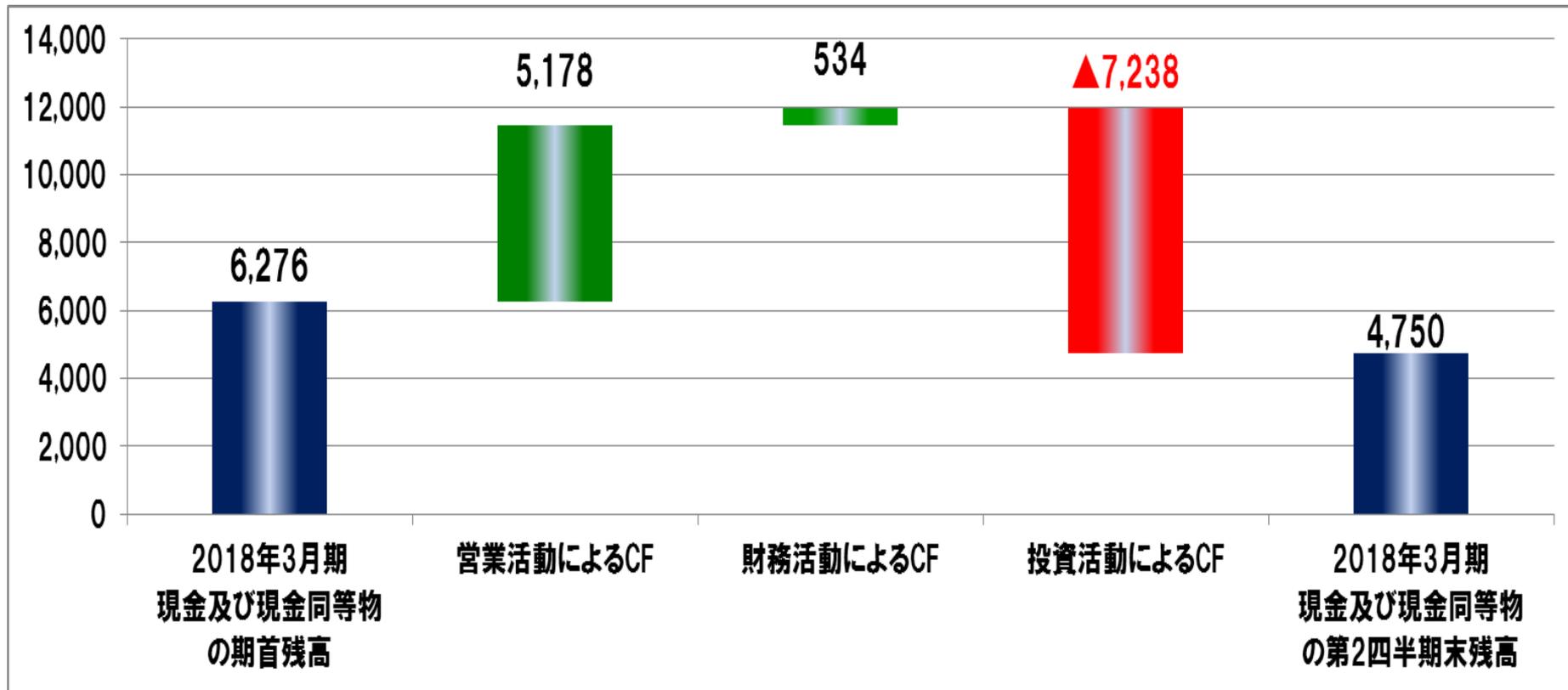
4. 貸借対照表の概要

(百万円)

		2017年9月末	2017年3月末	増減	前年度末比
資産	流動資産	72,719	70,096	2,622	3.7%
	固定資産	94,399	94,862	△462	0.5%
資産合計		167,119	164,959	2,160	1.3%
負債	うち有利子負債残高	33,988	32,571	1,417	4.4%
		88,674	89,591	△916	△1.0%
純資産		78,444	75,368	3,076	4.1%
負債・純資産合計		167,119	164,959	2,160	1.3%
1株当たり純資産		2,412.92	2,318.46	94.46	4.1%
自己資本比率		45.6%	44.4%	1.2%	

5. キャッシュフローの概要

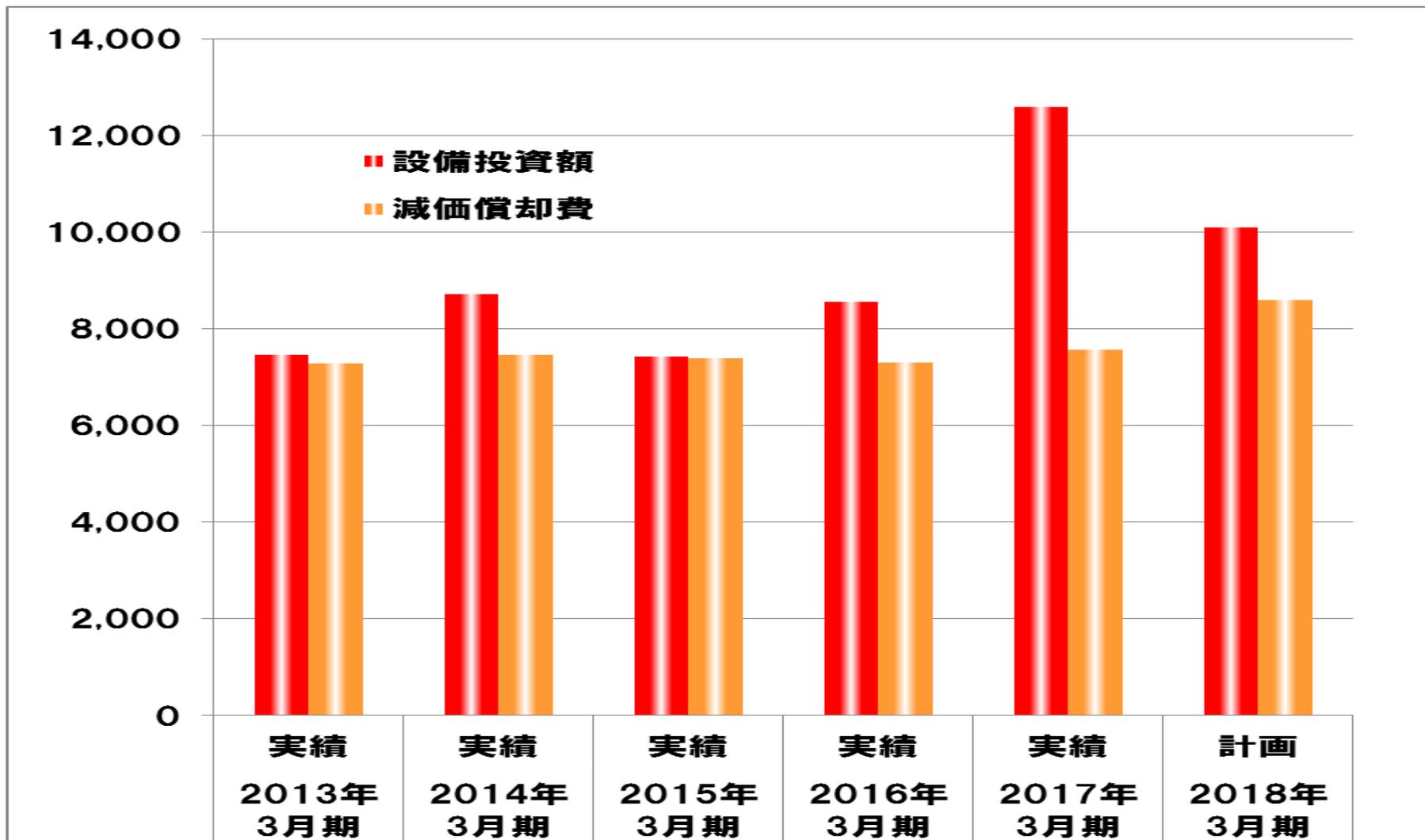
(百万円)



- 営業CF: 税金等調整前四半期純利益・減価償却費等による資金の増加
- 財務CF: コマーシャル・ペーパーの発行による増加
- 投資CF: 有形固定資産の取得による支出
- 現預金残高: 47億50百万円と前期末に比べて15億25百万円の減少

6. 設備投資額・減価償却費の推移

(百万円)



7. 2018年3月期 業績予想

(百万円)

	2018年3月期	2017年3月期	増減	前期比
売上高	243,000	233,206	9,793	4.2%
営業利益	7,600	8,786	△1,186	△13.5%
経常利益	8,300	9,514	△1,214	△12.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,300	6,167	△867	△14.1%
R.O.E.	7.1%	8.7%	△1.6%	

8. 今期の主なトピック

1. 単元株式数の変更

①変更の内容

単元株式数を1,000株から100株に変更

②変更予定日

平成29年10月1日

2. 株式併合

証券取引所が望ましいとしている投資単位の水準
(5万円以上50万円未満)を勘案し、当社普通株式
について5株を1株に併合

3. 転換社債型新株予約権付社債の転換価額の変更

①社債総額 : 80億円

②各社債の金額 : 100万円

③転換価額の変更 : 602円 ⇒ 3,010円

Ⅲ. 営業概要について

穀物ソリューション・カンパニー



昭和産業

取締役専務執行役員

檜前 慶一

1-①セグメント別業績(製粉事業)

Customer 【顧客】

【市場環境】

- ・国内小麦粉総需要は安定(460~470万トン)
- ・パン・麺市場は微増傾向
- ・CVS市場の拡大
- ・国産小麦粉の需要拡大

Competitor 【競合】

【競合・業界】

- ・製粉メーカーの減少
2005年 102社 ⇒ 2015年 83社
- ・寡占化の進行
大手4社のシェア 71.6% ⇒ 77.2%

Company 【自社】

【自社特徴】

- ・自社向けの様々な穀物相積による本船大型化を実現
SBSカテゴリーⅢで、小麦とトウモロコシを相積し、
パナマックス級の本船で調達

1-②セグメント別業績(製粉事業)

1. 当期の施策

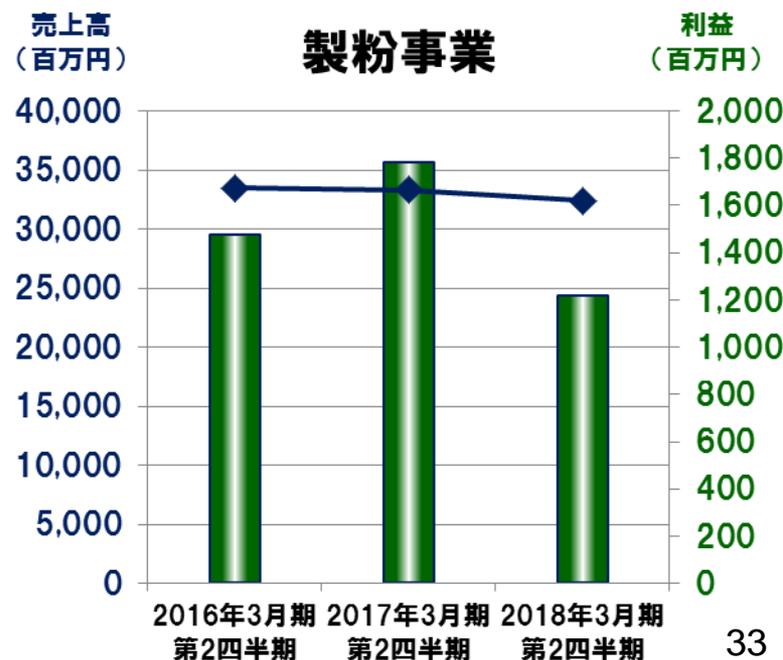
マーケット分析力を生かした「価値提案型営業」のさらなる強化

2. 良化ポイント

- ・80周年記念銘柄を中心に拡販を行ったところ、主に麵用小麦粉が増加し、販売数量は前期を上回る
- ・ふすまの販売数量も前期を上回る

3. 悪化ポイント

- ・プレミックスの販売数量は前年を下回る



2-①セグメント別業績（油脂食品事業）

Customer 【顧客】

【市場環境】

- ・中食/外食のボーダレス化が進む
- ・インバウンド効果を含め好調な外食産業
- ・消費の個食化・小容量化が進む
- ・消費者の植物油に対する好感度の上昇

Competitor 【競合】

【競合・業界】

- ・国内搾油量は維持微増傾向にて推移
- ・国内搾油工場の立地変更(移転・油種削減)
- ・パスタ製造工場の海外拠点化が進む

Company 【自社】

【自社特徴】

- ・複合事業、製品を取り扱うシナジー効果発揮による、課題解決型営業を推進
- ・穀物ソリューションカンパニーとして複数の穀物を取り扱うことによる、調達メリットの獲得

2-②セグメント別業績（油脂食品事業）

1. 当期の施策

課題解決型営業の推進及び顧客との取組強化の継続
シナジー効果を生かした食材及び食用油の適正価格による拡販

2. 良化ポイント

- ・業務用食用油及び業務用プレミックスの販売数量はほぼ前期並みを維持
- ・家庭用プレミアムオイルが大きく伸長

3. 悪化ポイント

- ・家庭用プレミックスの販売数量が若干前年を下回る
- ・食用油は厳しいコスト環境の中、価格改定を実施するも、コスト上昇分をカバーできず



3-①セグメント別業績(糖質事業)

Customer 【顧客】

【市場環境】

- ・ビール系市場が伸び悩む中、RTD(缶酎ハイ、カクテル缶)市場が拡大
- ・インターネット通販増で、段ボール需要拡大
- ・製紙関係はペーパーレス化から需要減退

Competitor 【競合】

【競合・業界】

- ・夏場天候不順の異性化糖需要減少により過当競争が激化
- ・競合大手は中京地区に集中
- ・日本コーンスターチ関東工場新設

Company 【自社】

【自社特徴】

- ・鹿島、敷島スターチと東西2工場生産拠点
- ・鹿島工場の立地(日本の東端)
- ・他部門とのシナジー

3-②セグメント別業績(糖質事業)

1. 当期の施策

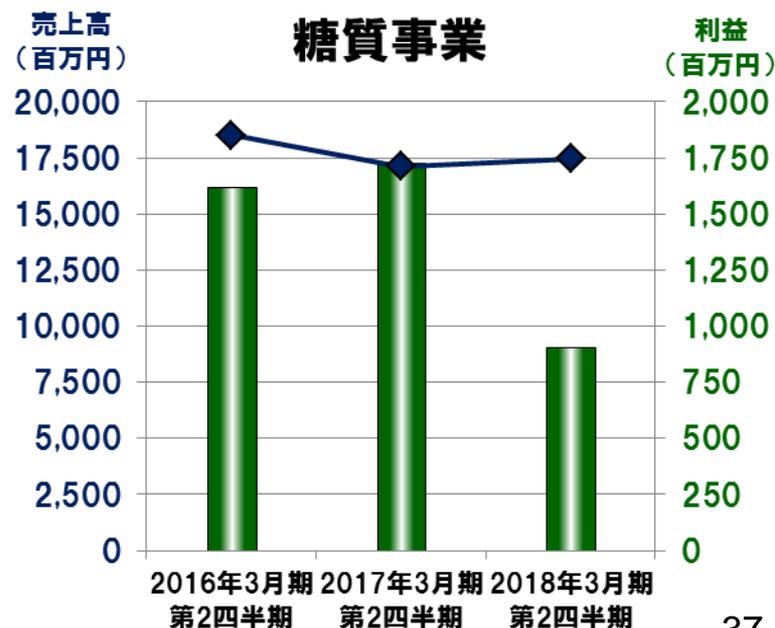
- 当社子会社である敷島スターチ(株)との販売統合効果を生かした
拡販の継続
- 低分解水あめや粉あめなど、独自商品群の提案と拡販

2. 良化ポイント

- 複合系シナジーを生かした提案型営業により食品用加工でん粉類
の販売数量は前期を上回る
- 新規開拓などにより糖化製品の販売
数量増
- 新製品バイアンデックスBH(低分解粉
あめ)を上市

3. 悪化ポイント

- 厳しいコスト環境の中、価格改定を実
施するも、コスト上昇分をカバーできず



4-①セグメント別業績(飼料事業)

Customer 【顧客】

【市場環境】

- ・鶏卵・畜肉の消費需要は好調
- ・配合飼料生産量は堅調に推移
- ・畜産相場も堅調

Competitor 【競合】

【競合・業界】

- ・西日本くみあい飼料が倉敷に工場統合
- ・農業競争力強化支援法が施行
⇒ 設備投資や業界再編の推進へ

Company 【自社】

【自社特徴】

- ・鹿島・志布志と国内有数の飼料基地に工場を持つ
- ・自社の製粉・油脂・糖質工場の副産物を有効利用できる
- ・グループ会社に鶏卵販売の昭和鶏卵を持つ
⇒ サプライチェーンの構築

4-②セグメント別業績(飼料事業)

1. 当期の施策

鶏卵を中心とした生産物の販売支援の取組を強化し拡販
 主要ユーザーに対する技術フォロー

2. 良化ポイント

- ・鶏卵の販売価格は前年を上回る
- ・原料相場が全般的に落ち着いて推移

3. 悪化ポイント

- ・配合飼料の販売数量が前期を下回る
- ・鶏卵の販売数量前期を下回る
- ・配合飼料の販売価格は若干下回る





穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業

見通しに関する注意事項

本資料は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的なリスクや不確実性などを含んでいることから、その達成や将来の業績を保証するものではありません。

また実際の業績等も本資料における見通し、計画等とは大きく異なる結果となる可能性がありますので、本資料のみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さい。

なお、将来における情報・事象及びそれらに起因する結果にかかわらず、昭和産業グループは当中期経営計画を見直すとは限らず、またその義務を負うものではありません。